



What a colorful world (たぶん前編)

ペンネーム: Tommy Harley

「LGBT」という言葉を見聞きしたことはありますか？ 近年、日本でも各メディアで取り上げられる機会が増えてきたので、少しずつ認知が広がっているのではないかと思います。

LGBTとは、レズビアン(同性愛女性)・ゲイ(同性愛男性)・バイセクシュアル(両性愛者)・トランスジェンダー(性別違和を持つ人)の各頭文字を合わせた性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称のひとつです。性のあり方はまさに虹のグラデーションのように多様であり、少数派はこの4種類に限定されるものではありませんが、一般社会で「普通」「あたりまえ」「こうあるべき」とされる男・女の規準にあてはまらない少数派すべてを包括した意味で「LGBT」が使われています。

言葉として知る人は増えたと思いますが、まだまだ社会に理解・受容が浸透しているとは言えません。少しでも多くの人にLGBTのことを伝えたいと思い、この誌面をお借りしました。

13人に1人

今年、電通が全国の約7万人を対象に実施した調査では、7.6%の人がLGBTに該当すると回答しました。これは左利きの人や血液がAB型の人との割合と同じくらいです。調査によって多少差はあるものの、学校・職場・家族親戚・地域など、日常のどこにいてもおかしくない数字です。国・人種・文化・時代も問わず普遍的に存在しています。「身近にいない」「TVの中や遠い世界のこと」と思う人もいるかもしれません。外見では判断しづらいことや、当事者の多くが差別や周囲との関係悪化を恐れて本当のことを明かせないでいるために、「可視化されていない=存在しない」となってしまうためです。

「誰もが異性と愛し合い結婚する」「この世には男か女しかいない」…そんな“普通”を大前提にあらゆる制度や規則、文化、人間関係が作られているこの社会では、“普通”以外の人たち

のことまでは想定されていません。彼らは社会的にも法的にも十分に守られていない状態で、さまざまな困難に直面しながら生活しています。

子どもの頃から抱える生きづらさ

多くのLGBTが幼少時に「自分はみんなとなんか違う」と気づいたといいます。LGBTの子どもたちは、「違う」がゆえに学校で揶揄や嫌悪、いじめの標的とされるリスクが高くなります。否定的な空気に侵され、アイデンティティが確立されていくはずの年頃に自己を肯定できず、「自分はおかしい。生きていていいのか?」と悩みます。中でもトランスジェンダーは、ことあるごとに男女別に分けられる場面で葛藤したり、第二次性徴期に身体が心の性と食い違っ変化していくという現実絶望すら感じます。

成長しても人生のビジョンを描けず将来を悲観し、いじめの被害経験や抑圧的な環境によりメンタルヘルスを悪くする当事者も少なくありません。LGBTの約6割が自殺を考えた経験を持つといいます。

海外では…

ロシアや中東・アフリカ地域には、同性愛者を迫害する法律を持つ国が多数あります。市民によるLGBTへの暴行・虐殺も横行していて、警察もそれを黙認している状況です。

一方、欧米諸国では、同性婚の合法化が進むなど、LGBTの問題を重要な政治課題と位置付けて当事者の尊厳・平等を守る動きが活発化しています。

“人権後進国”

国連からも人権状況の是正を勧告されている日本。多様な人たちが生きやすい社会を実現するためにどのようなことができるのか…と書き進めたいところですがスペースが足りません…。今後つづきを掲載する機会をいただけたら、トランスジェンダーである私自身のことも踏まえながら話したいと思います。(つづく?)